

拉致の娘 最期まで会えず

有本嘉代子さん死去



有本恵子さん

北朝鮮による拉致被害者で元神戸外大生有本恵子さん(27)の母有本嘉代子(ありもと・かよこ)さんが3日午後三時三十分、うつ血性心不全のため神戸市の病院で死去した。九十四歳。神戸市出身。自宅は神戸市長田区。葬儀・告別式は既に行なった。喪主は夫明弘(あきひろ)さん(90)。恵子さんとの再会は果たせなかった。

三女の恵子さんはロンドンに語学留学中だった一九八三年、デンマークのコペンハーゲン経由で北朝鮮に連れ去られたとされる。よ

ご号ハイジャック事件メンバーの元妻が、恵子さんの拉致に関与したと証言している。嘉代子さんは明弘さんと全国各地で講演や署名活動をしたほか、二〇〇四年には手記「恵子は必ず生きています」を出版。拉致事件

の解決を訴え続けた。親族によると、嘉代子さんは今年一月三日に自宅で骨折して入院。車いすに座り家族と話して笑顔を見せることもあったが、今月二日に容体が急変した。明弘さんは六日、神戸市内で記者会見し、何度も涙

を拭い「言葉が出えへん。そんな心境」と声を振り絞った。書面でも北朝鮮に拉致された恵子を取り戻すために、嘉代子と二人三脚で頑張ってきましたが、妻は力尽きてしまい今は全く気持ちの整理もつかない状態で「このコメントを出した。

有本恵子さんの母嘉代子さんの死去が明らかになった六日、解決に向けて一緒に

「どれだけ悔しいか」

「家族年取るばかり」

に歩んできた拉致被害者家族からは「恵子さんに会わせてあげたかった」と悼む声が相次いだ。

「(六)はコメントで「拉致被害者家族は高齢化し拉致問題の解決には一刻の猶予もない」と訴えた。

「(六)はコメントで「拉致被害者家族は高齢化し拉致問題の解決には一刻の猶予もない」と訴えた。

「志半ばでどれだけ悔やんでいるだろうかと思うと残念の一言では足りない」と悼みつつ、「解決する日まで有本(嘉代子)さんの気持ちとともに活動を続けていく」と前を向いた。

「(六)はコメントで「拉致被害者家族は高齢化し拉致問題の解決には一刻の猶予もない」と訴えた。

「(六)はコメントで「拉致被害者家族は高齢化し拉致問題の解決には一刻の猶予もない」と訴えた。

買い取りアプリ

ラクウル

ビックカメラ